

## ～臨床情報・検体の研究利用に関するお知らせ～

『研究課題名 糖尿病患者における大腿骨近位部骨折の手術成績』

研究機関名 東邦大学医療センター大橋病院

研究責任者 整形外科 職位・氏名 助教・高田和孝

### 【試料・情報の利用目的】

取得した試料・情報は糖尿病に罹患している方が大腿骨近位部骨折をおこしてしまった場合、手術成績にどのような影響を及ぼすかを検討することを目的とした研究に利用します。

糖尿病はその疾患の特性上様々な病態を引き起こし、血糖の管理が不十分であることが原因で適切な治療を行ったとしても健常者と比べ、骨折の治療において、感染症(創部の感染や尿路感染、肺炎など)や骨折の治癒の遷延や治らないこともあり、その他にも心臓や腎臓の機能が低下するなどの様々な合併症により機能回復が遅れ、臨床成績が悪いと言われています。また、大腿骨近位部骨折をおこしやすくなる骨粗鬆症の原因にもなり、手術を行った際も術後感染のリスクが健常者より高いと言われており、手術自体のリスクに多大なる影響を及ぼすため、適切な血糖コントロールが必要であると言われています。しかし、大腿骨近位部骨折の治療は受傷早期に手術を行うことが推奨されており、大腿骨近位部骨折の治療中の血糖管理が不十分である場合も存在します。この研究は大腿骨近位部骨折の周術期における糖尿病の管理状態が術後成績にどのような影響を与えるかを検討することです。この研究で得られる成果は糖尿病に罹患している方の大腿骨近位部骨折の適切な治療向上につながります。

### 【他機関への提供】

他機関への提供は行いません。

### 【研究に用いられる試料・情報】

診療情報の内容、X線やCT、MRIなどの画像情報、採血や生理検査結果などを使用します。研究に利用する情報は、患者さんのお名前、住所など、個人を特定できる情報は削除して管理します。また、今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できる情報を報告・公開することはありません。

### 【試料・情報の利用または提供を開始する予定日】

2024年8月より利用を開始します。

### 【試料・情報の取得方法】

対象者: 2018年4月～2023年3月までに東邦大学医療センター大橋病院 整形外科において、大腿骨近位部骨折で治療を受け、この時に新たに糖尿病と診断された方もしくはすでに糖尿病と診断され治療を受けた方、おおよそ100名

方法: 診療録(カルテ)から抽出したデータを解析します。

診療開始から1年までの情報を使用します。

### 【研究組織】

代表施設名: 東邦大学医療センター大橋病院 研究代表者: 高田和孝 役職: 助教

**【利用する者の範囲】**

東邦大学医療センター大橋病院 研究代表者： 高田和孝 役職： 助教

**【試料・情報の管理について責任を有する者の名称】**

東邦大学医療センター大橋病院

本研究に関してご質問のある方、試料や情報を研究に利用することを承諾されない方、もしくは代諾者(患者の親権を行う方、配偶者やその成人した子供、後見人その他これらに準じる方で、両者の生活の実質や精神的共同関係から見て、患者の最善の利益を図りうる方)は、2024年9月30日までに下記へご連絡下さい。申し出のあった方の試料・情報は、利用いたしません。その場合でも、患者様に不利益になることはありません。

**【連絡先および担当者】**

東邦大学医療センター大橋病院 整形外科

職位・氏名 助教・高田和孝

電話 03-3468-1251 内線 7517